

研究開発課題名		バイオバンクの利活用推進のための調査研究
機関名		国立大学法人岡山大学
研究開発担当者名	所属 役職	ヘルスシステム統合科学研究科 教授
	氏名	森田 瑞樹

① 活動状況の評価（本課題において優れていた点）

- 当初予定通り、「バイオバンク利活用推進のための課題の抽出」と「課題の解決策の提案」を報告書としてまとめ、国内バイオバンクに保管されている生体試料のリストを作成し、AMED およびクリニカルバイオバンク学会のそれぞれのホームページから公開予定である。
- 「生体試料の取り扱い方の現状の整理」を行い、検体取り扱いの調査と標準方法の提案の検討がなされ、この内容を公開するなど、当初計画を順調に達成した。
- 当初の予定にない、商用ルートからの生体試料の調査や ISO 規格文書の邦訳版についても検討され、これらを報告書にまとめるとともに要約版やハンドブックが公開されることとなった。
- バイオバンク利活用推進のための課題の抽出と解決策の提案に関する報告書の作成は、国内バイオバンクの今後の普及・発展のために有用な提案で評価すべき成果であり、医療分野と新技術の創出にも貢献した。

② 今後の活動への期待

- 現在進行している他のバイオバンク関連事業との連携を強め、国内バイオバンクに保管されている生体試料のリストの作成や、生体試料の取り扱い方の現状の抽出と標準方法の提案など、それぞれの事業が足りない部分を補完するように計画すると、さらに成果が期待できる。
- 生体試料の取り扱い方についてバイオバンクごとの事情の違いから標準化は困難とのことであるが、標準化はバイオバンクの利活用を促進するために根幹をなす課題であるように思われ、今後のさらなる取り組みが望まれる。
- 課題解決の方向性が情報共有に偏っており、調査結果の学術的な分析や論文化ができていない。そのため、バイオバンクにおけるシステム全体のルールが指針等により未整備であることが問題ならば、バイオバンク全体の会議体等を作り、そこで統一ルールを策定することや、法整備を含めた提言などといった還元を期待したい。